論文要旨

高齢者における運転の自己調整行動に関する研究

小菅　律

高齢運転者が関与する交通事故数は今後も増加が予想され、多くの国で高齢者の運転を制限する政策が実施されているが、高齢者の運転中止には安全面・生活面においてデメリットがある。したがって、健康な高齢者についてはできるだけ長く安全に運転を継続することが重要である。各自が能力を自覚し、自発的に運転を調整する運転の自己調整行動はこれを実現させる可能性がある。

本研究では、この運転の自己調整行動に着目し、高齢者の運転の自己調整行動の要因、判断過程、実態、効果について明らかにし、高齢者が安全に運転を継続するのに有効な対策を提案するのに役立てることを目的とする。

第１研究から第４研究（第２部）では、運転の自己調整行動に影響する要因について検証した。第１研究・第２研究では、運転回避・運転中止に影響する要因を検証し、運転回避の推進、尚早な運転中止防止に有効な対策への示唆を得た。第３研究では、先行研究が少ない、情報収集や運転中の行動等を含めた全般的な運転の自己調整行動の実態を明らかにした。第４研究では、夜間の運転に注目して高齢者が運転行動を判断する過程を明らかにし、高齢者が新しく夜の運転回避を採用する際や、運転中止を検討する際に、運転の意味や理由を考慮して運転を置き換えるための支援に有効なモデルを得た。

第５研究・第６研究（第３部）では、運転の自己調整行動が生活面・安全面に与える影響を検証した。分析の結果から、運転回避が安全面で有効であるうえ、生活面での悪影響はないことから、積極的に推進することが重要であることが示された。

最後に、６つの研究の結果をふまえ、運転の継続を希望する高齢者を対象とした教育・支援、運転中止をすべき高齢者に対する教育・支援について提言を行い、今後の課題を明らかにした。本研究で得られた知見は、社会全体の交通安全と高齢者の生活の質の維持を実現するために有効な示唆を与えるものである。